



分科会 2 薬学教育は新たなステージへ ～医療人として求められる薬剤師の基本的資質～

10月7日(日) 15:00～17:30 第2会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 3F 31会議室)

W-02-06

実務実習を通じて感じたこと

あらい てるひさ
荒井 輝久

静岡県立大学薬学部薬学科

【はじめに】 薬学6年制第二期生として、長期実務実習を行った。病院実習、薬局実習それぞれを通じて感じたことや、今後の実務実習のあり方について考察する。

【実習施設、期間】 病院実習：JA 静岡厚生連静岡厚生病院（静岡県静岡市）、2011年5月16日～8月7日（2011年第一期） 薬局実習：成岡薬局井口店（静岡県島田市）、2011年9月5日～11月27日（2011年第二期）

【実習内容】 病院実習：調剤、薬品管理、DI、外来服薬指導、注射調剤、病棟での薬剤管理指導、治験などを行った。薬剤管理指導では、患者さんの入院から手術、退院までフォローすることができた。 薬局実習：調剤、製剤、保険請求業務、服薬指導、OTC薬、在宅医療、医療連携、災害時医療などを行った。医薬品卸や特別養護老人ホームの見学、漢方専門薬局での実習、薬業連携の勉強会への参加など多岐に渡って行うことができた。

【まとめ】 臨床現場での実習は初めての経験であった。分からないことは質問したり、自分で調べるなど、受け身ではなく、主体的に実習に臨んだ。大学で学んだ知識が、現場でどのように活かされているか、薬剤師として処方やカルテから、疾患や患者背景など様々なことを想像し、伝える相手によって適切な言葉で、適切に薬学的介入をする難しさを体験できた。病院実習では、カンファレンスやNSTの回診への参加、看護師向けの薬剤の勉強会で資料を作成して発表を行い、チーム医療における薬剤師の役割について理解した。「すべては患者さんを意識し医療が行われている」ことや、「薬剤師の責任の重さ」を感じた。 薬局実習では、病院実習で身に付けた知識を、服薬指導を通じてさらに深めることができた。OTC薬や健康食品、漢方薬なども実際に取り扱い、自分の判断で適切に薬剤を選択する楽しさや楽しさを学んだ。さらにおくすり手帳を用いた地域医療連携や、患者さんのお宅を訪問し、在宅医療も行った。薬剤師は単に調剤を行うのではなく、薬学の知識を活かせる場はたくさんあり、今まで以上に医療に貢献できると感じた。実務実習を通じて、漠然としていた薬剤師の役割や重要性を理解することができた。しかし、実習終了後に同級生と話し合ったところ、実習を行う施設により、実習内容にバラツキがあることが分かった。扱う処方の内容、病棟業務の充実度、OTC薬や健康食品の取り扱いの多寡など、実習施設の業務状況によっては、モデル・コアカリキュラムに沿った実習を行うことに苦心していた。また、本学ではすべての学生が実習終了後に実務実習の成果を発表しているが、学生個々が実習で身に付けてきた成果や課題を共有する場が大切であると感じた。4年次までに学んだ薬学の知識は幅広い分野で役立つことができ、医療に関わる様々な方の話を聴くことで、自分の将来を考える良い機会にもなった。今後も薬学の知識や技能をより深めていくと共に、薬剤師として必要なコミュニケーション能力を身に付けていきたい。